



# じつきょう

## 地歴・公民科資料 No.69

### 巻頭

## 新学習指導要領特集

—公民科編—

文部科学省は、2013年度（平成25年度）より実施される高等学校の地理歴史・公民科の新学習指導要領を2009年3月に告示した。

地理歴史・公民科では、標準単位数・必修科目とも現行と同様である。

今号の特集では公民科の新学習指導要領について取り上げ、次号は地理歴史科について取り上げることとする。

まず、地理歴史・公民科の「科目構成」を示し、公民科の目標についてまとめた。また以下のページでは、公民科の各科目について内容構成の現行と新課程を対比し、その特徴をまとめた。

### 科目構成

教科	科目	標準単位数	すべての生徒に履修させる科目
地理歴史	世界史A	2	○ どちらか1科目
	世界史B	4	
	日本史A	2	○ 並びに
	日本史B	4	
	地理A	2	○ いずれか1科目
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は 「倫理」と「政治・経済」
	倫理	2	
	政治経済	2	

#### ○公民科の目標

新学習指導要領でも現行の趣旨は継承されている。文言の改訂は「民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として」（現行）が「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として」（新課程）となった点だけである。これは教育基本法第1条の表現にあわせたためである。

### ◆もくじ◆

巻頭	新学習指導要領特集	1
トピックス	臓器移植法の改正—改正のポイントと残された論点— ／有馬 斉・児玉 聡・井上 悠輔	5
シリーズ	韓国の教育問題1 近現代史教科書検定問題／三橋 広夫	9
お知らせ		12

## ① 現代社会（標準単位数 2）

### 1 目標

「現代社会」の科目としての目標は現行と基本的には同じである。文言の改訂は「現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する」（現行）が「現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断する」（新課程）となった点だけである。これは、公民科が社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、生徒の主体的な学習を重視していること、現代の社会に対する関心を高め意欲をもって考察させることを重視していることを示している。

### 2 内容

現 行	新 課 程
(1) 現代に生きる私たちの課題	(1) 私たちの生きる社会
(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方
ア 現代の社会生活と青年	ア 青年期と自己の形成
イ 現代の経済社会と経済活動の在り方	イ 現代の民主政治と政治参加の意義
ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理	ウ 個人の尊重と法の支配
エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	エ 現代の経済社会と経済活動の在り方
	オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割
	(3) 共に生きる社会を目指して

#### (1) 私たちの生きる社会

現代社会における諸課題をとらえ、考察するための枠組みを身に付けさせるとともに、現代社会に対する関心を高め、この社会の中でいかに生きていくのかを考察することの大切さを自覚させることを主なねらいとして新たに設けられた。科目としての導入部分であるが、課題として、生命、情報、環境などを取扱い、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、それらは社会の在り方を考察する上で大切であることを理解させる。幸福や正義、公正とは何か、ではなく、幸福や正義、公正などを用いて現代社会を理解させるという考えである。中学校での学習を踏まえ、この科目の全体を貫く倫理的価値として、幸福、正義、公正が示されたのであり、「など」として第4にあげられる価値のひとつには「善」があるだろう。

#### (2) 現代社会と人間としての在り方生き方

中項目での大きな変化は、現行の「ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理」が、新課程では「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」と「ウ 個人の尊重と法の支配」に分割されたことである。これは裁判員制度に対応するとともに法教育を充実させるという意図によるものである。また、金融経済教育についても充実が求められている。

#### (3) 共に生きる社会を目指して

内容（1）および（2）の学習の成果を踏まえ、持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会における課題について追究し、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方を考察させることを主なねらいとしている。個人と社会、社会と社会、現役世代と将来世代のいずれかの関係に着目した課題追究学習が求められる。

なお、キャリア教育の視点が示されたことは「現代社会」における生徒による主体的な学びを進める上で大きな意味を持つと考えられる。

課題追究学習としては（2）では各項目ごとに課題を設定して、幸福、正義、公正などを用いて考察させることとなり、現行の内容（1）のみが課題追究学習であったことは大いに異なっている。

（東京都立富士森高等学校 篠田 健一郎）

## ② 倫理（標準単位数 2）

### 1 目標

「倫理」の目標には、「生命に対する畏敬の念に基づいて」「他者と共に」生きる主体という文言が加わった。このことは社会において生きる主体が、共生という考えを持つことの重要性や、人間のみならずすべての生命のかけがえのなさに気付き、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊ぶことの重要性を謳っている。すなわち高等学校における道德教育の中核を担う倫理の性格付けをあらわしているともいえる。

### 2 内容

現 行	新 課 程
(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方 ア 青年期の課題と自己形成 イ 人間としての自覚 ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚	(1) 現代に生きる自己の課題 (2) 人間としての在り方生き方 ア 人間としての自覚 イ 国際社会に生きる日本人としての自覚
(2) 現代と倫理 ア 現代の特質と倫理的課題 イ 現代に生きる人間の倫理 ウ 現代の諸課題と倫理	(3) 現代と倫理 ア 現代に生きる人間の倫理 イ 現代の諸課題と倫理

#### (1) 現代に生きる自己の課題

青年期の意義と課題を取り上げると同時に、自己の課題が現代の諸課題と密接に関わっていることに気付かせることを眼目としている。従って(3)の「イ 現代の諸課題と倫理」との関連を図り指導することが求められ、その点でもこの大項目は倫理の科目全体の導入として位置付けられる。そして、生徒が人間としてよりよく生きる上での課題を自ら発見し、探究していく意欲を喚起するようにする指導を工夫する必要がある。

#### (2) 人間としての在り方生き方

「ア 人間としての自覚」については、宗教に関する教育を重視する方向性に従い、内容にイスラム教が加わった他は、内容や位置付けに変化は見られない。指導においては倫理的な観点を明確にするために、例えば「愛」「幸福」「正義」など、倫理的な価値を比較しながら追究するような場面を設定することによって、単純に知識を身につけさせる指導から、知識を総合化し探究する場面につなげる指導が求められる。

「イ 国際社会に生きる日本人としての自覚」も本文に変更は見られないが、伝統と文化に関する指導を充実させる方向性があることから、より重視しなければならないであろう。例えば日本の伝統的な価値観である、侘びや寂び、雅や粹といった美意識を取り上げることによって、日本人としての自覚を促す指導が考えられる。

#### (3) 現代と倫理

「ア 現代に生きる人間の倫理」についても文言に変更はない。ただ、現代の社会について言及する際には、「他者と共に生きる」視点、例えば義務と責任について考察を加えさせる指導など工夫する必要がある。

「イ 現代の諸課題と倫理」については、現行の指導要領に示されている課題について整理を行い、課題の選択の制約をはずしている。より柔軟性を持たせることによって、「課題追究学習」を着実に行うことが求められていると考えるべきである。このことは知識にかたよらない公民科の指導が求められていることと表裏一体のことである。課題については「家族」「地域社会」をそれぞれ独立させたこと、「文化と宗教」というように新たに宗教が加わったことなどが注目される。

また、特筆すべきは「論理的思考力や表現力を身につけさせる」指導が新たに加わった点である。それは生徒が主体的に考え、自らの意見を整理して発表し、異なった意見をもつ人と議論し、合意の形成に向けて努力する能力などを身につけさせることが必要であることを述べたものである。従って、従来行われているような授業実践であるディベートを単に行って勝敗を決めるというような指導ではなく、「合意形成」のためにどのような努力や力が必要か考えさせることなどが必要である。

倫理は学習指導要領本文において大きな変更が見られないように思われるが、改訂の趣旨などを把握した上で知識・理解にかたよることなく自らの在り方生き方を探究する指導をよりいっそう工夫することが必要であろう。

(東京都立福生高等学校 本間 恒男)

### ③ 政治・経済（標準単位数 2）

#### 1 目標

「政治・経済」の科目目標は従前と同一である。

#### 2 内容

現 行	新 課 程
(1) 現代の政治 ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 イ 現代の国際政治	(1) 現代の政治 ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 イ 現代の国際政治
(2) 現代の経済 ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み イ 国民経済と国際経済	(2) 現代の経済 ア 現代経済の仕組みと特質 イ 国民経済と国際経済
(3) 現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題	(3) 現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題

3つの大項目「現代の政治」「現代の経済」「現代社会の諸課題」、そして各大項目に2つの中項目という構造には変化はないが、小項目には変更がある。

なお、「政治・経済」については、中教審答申（平成20年1月17日）で、「習得した知識、概念や理論などを活用し、課題を追究させる学習を一層充実させ、政治や経済についての見方や考え方を培うようにする。また、グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大などに対応して、法や金融などに関する内容の充実を図る」とされ、これを受け内容の改善が図られた。

##### (1) 現代の政治

「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」では、「天皇の地位と役割」「地方自治」「政治と法の意義」が新たに追加された。

「イ 現代の国際政治」では、「国際社会の変遷」「我が国の国際貢献」が新たに追加された。

##### (2) 現代の経済

「ア 現代経済の仕組みと特質」では、「資本主義経済と社会主義経済の変容」が削除され、「経済活動の意義」が追加された。

「イ 国民経済と国際経済」では、語句の入れ替えのみで小項目の変化はなかった。

##### (3) 現代社会の諸課題

政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代社会の諸課題を探究する学習活動を行うことには変化はないが、その視点として「持続可能な社会の形成」が新たに付け加えられた。

「ア 現代日本の政治や経済の諸課題」では、「大きな政府と小さな政府」「住民生活と地方自治」「情報化の進展と市民生活」「消費者問題と消費者保護」「公害防止と環境保全」が削除され、「地域社会の変貌と住民生活」「雇用と労働を巡る問題」（「労使関係と労働市場」を変更）が新たに追加された。

「イ 国際社会の政治や経済の諸課題」では、「核兵器と軍縮」「経済摩擦と外交」が削除され、「資源・エネルギー問題」「地域紛争」が新たに追加された。なお、削除された項目は、(1) または (2) で指導されることになった。

「内容の取扱い」については、(1) アで「法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせること」「裁判員制度を扱うこと」、イで「文化や宗教の多様性についても理解させること」「軍縮や核兵器廃絶などに関する国際的な取組についても扱うこと」が追加された。(2) アで「公害防止と環境保全、消費者に関する問題も扱うこと」「金融に関する環境の変化にも触れること」が追加された。(3) アでは、「国際社会の動向に着目させたり、諸外国における取組なども参考にさせたりすること」が追加された。